

わたしたちの同窓生

(87周年)

会員数 23,398名
在校生数(全・定) 1,254名

昭和61年12月24日現在



同窓会報

樹の権

1986.12.24 創刊号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町201 電話(0273)62-2585

発行責任者 齋藤 民
印刷所 ほその印刷

母校群馬県立高崎女子高等学校は、ご承知の様に明治三十二年五月、群馬県初の県立高等女学校として末広町に設立されまして、本年まで八十七年という長い歴史をたどってまいりました。県下に誇る名門校として輝かしい存在を發揮してまいりました。これだけの長い歴史と伝統をもつ、我々二万三千余名の同窓会員に是非、母校の現況や、同窓会の歩み等をご報告し、一層の親睦をはかってまいりたいと存じまして、かねてより考えておりました同窓会報をこの度発行する事にいたしました。

去る昭和五十七年に、末広町よりこの稲荷町に校舎の全面移転をいたしました際、記念事業として、皆様から多大のご寄附をいただき建てられました記念館が「権樹館」と命名されましたので、この権

事項が主になりましたが、次回からは同窓生の近況等も掲載してまいりたいと思っておりますので、是非皆様のご協力をいただきたく存じます。過日、皆様に維持会費をお願い申し上げましたところ、早速ご送金いただきましたこと、有り難う存じました。維持会費は

この「権の樹」の発行に使われますので何卒今後とも引き続きよろしく願ひ申上げる次第でございます。さて、ここ十年程を振り返りかえって見ますと、昭和五十四年に母校八十周年を記念して群馬音楽センターで盛大に記

互の安否も知るを得ず、ま

「四とせの間、朝な夕なになれ親しみし学びの家、机をならべて学びし友、嗚呼この家、この友こそ、我等を社会に産み出したる懐しの慈母にして、我等が喜憂を分ちたる慕しの姉妹なれ

して 母校の状況などは風の便りならずは つゆ聞き及び難きぞ口惜しき。よりて、二度、本会の組織を変へ、事業を改め、且、本誌を発行して我等互の消息を通じ、又母校の状況を報ずること、せり。あはれ、客員諸先生の指導を仰

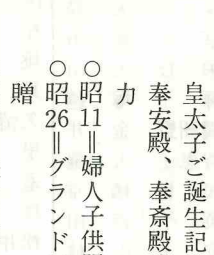
の暖いご協力で建ちました権樹館は、在校生も同窓生も頻りに利用させていただいております。昭和六十四年五月には、母校開校九十周年を迎える事になります。すでに新聞紙上等でご承知の事と存じますが、



「権の樹」発刊を祝す

荒木健一 学校長

さて、この度、絶えて久しかった同窓会報が「権の樹」と改題され、想を新たに



「権の樹」発刊を祝す

荒木健一 学校長

この「権の樹」の発行に使われますので何卒今後とも引き続きよろしく願ひ申上げる次第でございます。さて、ここ十年程を振り返りかえって見ますと、昭和五十四年に母校八十周年を記念して群馬音楽センターで盛大に記

念行事を行いました。引き続き五十七年七月四日、永年住み慣れ多くさんの卒業生を送り出しました末広町の校舎に別れを告げて、この稲荷町の近代的な明るい校舎に全面移転をいたしました。高女にとって開びやく以来の大事業でございました。そして、皆様

第一号発行
○大12 創立二五周年記念館落成(三八坪)その後昭29改修され校長公舎となる。

その第一は「高女九十年史」の刊行です。本校は、県下で最も古い伝統校ですが、まとまった形での学校史がありません。前橋女子高校(前女六十年史、上下二巻)をはじめ、

この「権の樹」の発行に使われますので何卒今後とも引き続きよろしく願ひ申上げる次第でございます。さて、ここ十年程を振り返りかえって見ますと、昭和五十四年に母校八十周年を記念して群馬音楽センターで盛大に記

示する展示館を作る事になりました。女学校第一回から各回の卒業生の作品、時代を物語る資料等、長い間にたぐわえられた多くの貴重な品々がございます。卒業生にとりましてはなつかしい貴重な資料でございますし、在校生にとりましては、大先輩の残した生きた教材を常に目のあたりに見る事が出来るという、まことに教育的意義の深い展示館が建てられる事になっております。我々卒業生は全面的に、総力をあげて資料を提供したり参考品を持ち寄ったりして、この記念事業が充実したものになりますよう協力したいと思っております。

同窓会の役員もたくさん参加しております。また学校史の編集委員も学校の先生方と多数の委員を推薦いたしております。

ごあいさつ
同窓会長 齋藤 民

配の方々の強いご要望で実現いたしました。たまたま白根の悲しい事故から十年目に当りまして十一月五日、雪をふみわけて碑に花輪をささげ一同涙しながら校歌を歌いました。白根を越して草津に一泊して翌日帰ってまいりました。本年も、去る十月二十七日、二十八日と一泊二日で長野県の別所へまいりました。非常に厚い年令層を持つ高女の同窓会としては、年令層が限られ僅かな会員のご参加になり一考を要する事と思いましたが、昨年と顔ぶれも変わり、旅行係の皆様が暖いお心くばり、親睦の輪も広がりが有意義な楽しい旅行となりました。

母校あつての同窓会でございます。母校が名実共に光り輝く高女として、益々発展されます事を皆様と共に心から祈りごあいさつとさせていただきます。



(写真)上は権樹館の全景、左は母校東側を望む

願っています。正史も勿論大事ですが、外史の面も強く打ち出していきたくと思っております。

本校の長い歴史のなかで、校史編纂は初めての試みであり、今後百年史、百五十年史が刊行されるとすれば、それこそまたと得難い道標の役割を果たし、貴重な資料となる

(2面上段へつづく)

同窓会本部役員

Table of Executive Officers (役員) with columns for Name (氏名), Position (職名), and Telephone (電話). Includes roles like 会長 (President), 副会長 (Vice President), and 顧問 (Advisor).

ことを確信しています。同窓生の方々からも委員になって...

二階建、四室、一八〇平米(五四坪)の建物です。第一室は本校の歴史を示す展示室です...

そのほか、次の場所に冷暖房の設備を整えることがあります。図書館、視聴覚室(未)

(地区別幹事)

Table of Regional Officers (地区別幹事) listing names and regional affiliations.

(卒業期別幹事)

Table of Officers by Graduation Year (卒業期別幹事) listing names and graduation years.

Main list of members (同窓生) with columns for Name (氏名), Position (職名), and Telephone (電話). Includes names like 藤野 藤子, 斎藤 吉子, etc.

信州の鎌倉、別所温泉を旅して

河原 久代 (43回)

「修学旅行のなき世代ゆえ還暦を祝って友との旅を楽しむ」

今年の同窓会の信州旅行に私たち四十三回生は、十名参加させていただきました。還暦の前祝いというわけではありませんが、五十代最後の修学旅行となりました。

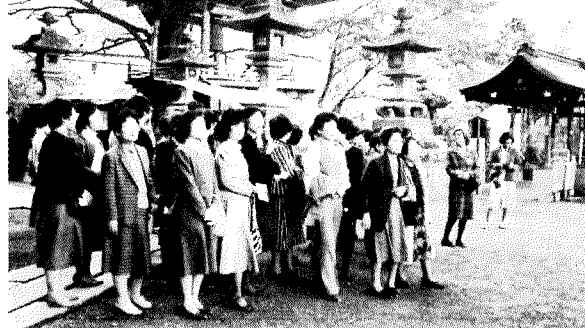
杉木立の暗きをたどる裏山に鎮まりてあり国宝八角三重の塔

四重の塔かと思える一番下は裳階と呼ばれるひさしのことでした。まわりを歩いて見上げる塔は、往時の文化を思わせる美しい姿でした。

裏山へ登る急な坂やすべり易い石段を、確かな足どりで歩かれる斎藤会長さんをはじめ先輩方の健脚ぶりに圧倒されました。ピンと背すじを伸ばしてしつかり歩くことが健康の秘訣と、いつも金井先生に承っておりますが、先輩方と一緒に旅をして、目のあたりに教えられました。

格天井に四季の花々の描かれて色褪せたれど蓄らつしやいました。このたびのご受賞は、これらのことが高く評価されたものでございます。地域文化功労者は、全国各地で芸術文化の振興や文化財の皆様方には是非大勢ご出席

高女同窓会で信州の別所温泉に楽しい旅行に行つて参りました。昨年は当番幹事で何かと忙しい草津旅行でしたがとても楽しく皆さんに喜んでいただけただけで、今年も色々都合をやりくりし、また参加させていただきました。高崎駅東口を九時に出発し先輩後輩皆同級生の様な親しみをもち和気あいあいのバスの中、外の景色はほどよい紅葉でゆつたりとした気分の観光バス。昼食は、別所龍光院で



是非ご出席くださいますよう心からお待ち申し上げます。同窓会では、そのご受賞を會員の皆様と共に心からお祝いしたいと存じまして、受賞祝賀会を新年会と併せて行うことになりました。會員の皆様方には是非大勢ご出席

派な風呂でした。暖房をきかせ静かな一夜を気持ちよく過ごし二日目十時に出発。くるみのおはぎと未完の三重の塔の前山寺、信濃デッサン館、真田織等を見学し、それぞれ思い出にと良い品物を買ひ、また途中でまつたけ一万円也を買った人もあり、心に思い出をつめバスにゆられて軽井沢プリンスホテルに到着、遅い昼食をとり一路高崎へ。一泊二日の長いようで短かい旅ではありましたが、途中下車する人ごとに手をふり次の機会にも是非、といあい親しみ

岡田 玲子 (高10回) 十月二十七日(月)二十八日(火)の両日、同窓会では昨年に引き続き、會員の研修と親睦をかねた一泊二日のバス旅行を、実施いたしました。場所は、最近とても人気の出できた信州の鎌倉と言われる別所温泉です。秋晴れの一日目、斎藤同窓会長を始め参加者四十八名は全員定刻には高崎駅東口に集合しバスに乗り込みました。「しばらくです」「お元気でなか」「なつかしい再会にバスの中はにぎやか。車窓からの碓氷峠はみごとに紅葉しています。これからの旅が楽しく素敵なものになりそう、そんな気持ちにしてくれる美しさです。昼頃、龍光院に到着。バスを降りて参道を歩きはじめ少し行くと右手の方に自然石を使つた北条義政のお墓と言われている石塔「おかいきさん」があります。この龍光院で山菜料理を賞味しました。やはり評判どおり結構な味でした。そして、今日の宿「花屋」へ向いました。この庭園はすばらしく美しかったのでしばしば見とれる程でした。少し休憩してから楽しみにしていた「鎌倉路」の見学へと出発しました。北向観音、安楽寺、常楽寺といった古刹が点在し、秋晴れの空と紅葉ととても良くマッチして私たちを迎えてくれました。

皆様お楽しみみの宴会は、歌ありダンスありかくし芸ありプレゼントありの賑やかなもので、どんどん出てくる出し物に時のたつのも忘れるほどでした。そして大いに親睦の輪が広がったと思います。お開きになると各別館ごとに部屋に集まり夜のふけるまで

母校が、昭和六十四年に九十周年を迎えるにあたり数多くの事業を計画しておりますが、その内の一つとして記念展示館を建設して卒業生のすばらしい作品や貴重な資料を展示する構想です。つきましては記念展示館を含めての事業に対する募金活動に協力いたす事になりました。全体の募金目標五〇〇万円に対し同窓会として一五〇万円程の募金目標をたてており、来年六十二年より募金活動を始動いたす予定でありますので、期別幹事を通して同窓生の皆様にご協力いただき、この事業活動を推進させるために、多大なご支援をお願いいたします。

常任理事 熊倉京子、宮下初枝、村田喜代子、徳井みち子、森山蓉子、蠟山啓子、岡田玲子、吉川仁子、東野芳子、岸数子、大木譽子、原勝代、会計監査 堺徳子、浦野千代子、以上(敬称略)

九十年史編集委員 記念事業の一つとして母校では始めて校史を刊行することになり、同窓生の協力がなくてはならない分野があり本会から次の方が編集委員として活躍されます。(敬称略) 星野美枝(45)、吉田貞子(46)、吉村晴子(高5)、森

維持費の現状について 先般高女同窓会の活動にともなう維持費徴収の件につきましては、めまぐるしく進歩してゆく現社会に対応するために、同窓会も現状をふまえ活動する期に際し資金の必要があり、會員の皆様のご援助をいただいた次第でございますが、現在のところ徴収状態は全体の20%程度で今後共、會員の一層のご協力をお願い申し上げます。

納入人数 二、〇四七人 納入金額 五百九万九千円 昭和六十一年十二月十五日 現在 (事務局)

斎藤民先生、文部大臣表彰受賞 祝賀会並びに新年会のお知らせ

同窓会長斎藤民先生は文化庁より今年度の地域文化功労者に選ばれまして、六十一年十一月五日に東京国立小劇場での授賞式で文部大臣表彰をお受けになりました。

先生は六十年十月まで群馬県教育委員長の重責をになわれ、また三十六年四月からは県合唱連盟理事長、五十七年八月からは群馬音楽協会会長をお務めになり、音楽文化団体の指導育成や音楽文化の振興に貢献なされてい

保護などの功績のあった個人・団体に贈られているもので、五十八年度に創設されて以降今年が四回目、本年度は全国各地で個人八十八人、団体十二団体が選ばれております。

ご多忙の折ではごさいませうが、万障お繰り合せの上

ご出席くださる方は、当番幹事の滝沢幸枝さん(電話二二五二五三三)又は各学年の期別幹事さんへ一月二十三日(金)までにお申込みください。

二日目。前山寺へ、ここには国の重要文化財に指定されている「未完成の完成塔」と呼ばれる三重ノ塔があります。未完成の姿に見えますが全体では均整がとれていて完成された型をもっている、と言われている塔です。この任職夫人手作りのクルミおはぎは

うね」と約束し合っている人たちもいました。夕方高崎に無事到着。とても良い思い出に残る旅ができました。村田旅行委員長はじめ、お世話していただいた旅行委員の皆さん、参加していただいた皆さんに感謝いたします。どうもありがとうございます。

左の略図は記念館設置場所(二階建)

日時 二月八日(日) 十一時~十三時 場所 高崎ビューホテル 会費 七〇〇〇円 (記念品代を含む)

写真は椎樹館庭園

写真の略図は記念館設置場所(二階建)

写真の略図は記念館設置場所(二階建)

写真の略図は記念館設置場所(二階建)

写真の略図は記念館設置場所(二階建)



同窓会報「権の樹」
発刊にあたって



新野カツ (12回)

創立八十七周年を迎えた今年初めて会報を刊行されること、誠に嬉しい事と思います。

日進月歩の世の中、めまぐるしく変わる世相、第一回卒の姉の頃はまだ幼な過ぎて、何の感じも無く、ただ姉のヤカイ巻きと云う髪形が今もまぶたに残っている。

第四回卒の姉の頃は、世に云う鹿鳴館時代で、何と無く華やかな世相で有ったように思う。

明治四十年頃より世相は一変し、私の入学の頃は、たとへ親戚の者であつても男子と口を聞いてもならぬとのきびしい校訓であつた。

昭和十年頃より、いよいよ世の中風雲急を告げるようになり、長女は卒業間もなく、同期の吉田様、小林様と共に、東京の軍事工場に挺身隊として連れて行かれ、二女は卒業と同時に市内の銀行へ勤務、



新保充子 (14回)

三女の時には戦時中となり、アメリカに飛ばす風船造りで、毎日コンニャク糊で風船を貼る仕事に集中して、手の甲は霜やけではれ上り、漸く終戦を迎えて卒業と云う次第であつた。

今日の平和なうち足りた世の中を只々幸せと喜んでよいのでしょうか。

此の度、会報発行ということは誠に結構な事でお目出度うございます。昔、松のゆかり、という校友会誌がございまして楽しみに読んで居りましたが、今度「権の樹」と命名され同窓会報が発足される由有難く嬉しく存じます。

何か一言とのお話ですが、卒業後七十年もの月日経つておりますので思うようにまとまりません。私は明治四十五年に倉賀野小より入学し、

当時は高崎・上野間に汽車が一日に幾本という時代でございました。県下に女学校は一校だけなので張り切つて往復歩いて通学致しました。その頃は校歌がございせんので、皇后様のお歌、金剛石も磨かざば、を全生徒で歌つておりました。厳格な先生方の御指導のもとに勉学に、音楽に、運動に、と又きびしい礼儀作法を身につけて頂きまし

た。楽しい思い出としては、校庭の藤棚の下でテニス、羽根つき、ピンポン等をしたこと。中でも三年生の秋に江の島鎌倉への二泊旅行の時、山国の私達が海を見た時の感激は今でも忘れられません。帰りに東京でデパートを見学し、その立派さに驚き、また東京の女学生が長い袂に紫の袴で靴をはいてリボンをつけサツン

と歩いているハイカラな姿をみてビックリ致しましたが、私達は群馬県代表の女学生との白覚を持ち、その時ほど三蓋松の徽章に誇りを感じた事はございせんのでした。大正二年頃から世の中が移り変わり世に言う新しい女性も出てはやされ、平塚雷鳥とか与謝野晶子、それに松井須磨子のカチュウシヤの歌が一世を風靡し、学校教育とは裏腹な大正四年に卒業致しました。結婚後育児家事等にもゆとりが出来、同窓会やクラス会に出席出来る年頃になり、第二回同窓会長小保方様の時に副会長としてお手伝い致して居りましたが、小保方様が御病気でおやめなつた為、器ではない私がおされて会長をお引き受けすることになった次第でございます。それから校舎の改築やら備品(ピアノ・ミシン)等の寄付金集めやらで二十数年が過ぎました。当時の校長先生は副会長の時は矢野先生、会長になつてからは森野先生(26年・30年)田中先生(30年・37年)剣持先生(37年・43年)市川先生(43年・45年)中野先生(45年・48年)と五人の校長先生でございまして。

この間、校長先生始め先生方と母校の事を常に考え行動を共に致して参りました。今でも田中先生、中野先生とは親しくおつき合ひさせて頂いて居ります。会長時代は余りにも忙しく毎日母校通いでし

た。特に会員の方が喜んで下さつた行事の一つに年一回の同窓会旅行がございました。夜のバスで駅前から校長先生に見送られて出発致し、当時ではデラックス旅行で毎年待ちきれない程楽しい旅行でございました。三十八年頃から学校は山の家がほしいとの話が

持ちあがり土地を見つけたこと、建築資金の事でPTA・振興会・同窓会の四者合体となつて40年10月15日に落成式の運びになり、草の根をわけ足をすべらせながら出来上がった山の家の祝賀会場で参列者一同で校歌を合唱した事は忘れられません。10年間ほど生徒達の思い出の場所でした。思いがけない不幸な出来事が驚きと悲しみに十数年胸がつまつて居りましたが、昨年

しばらくとだえていた同窓会旅行の第一回企画として、思いがけなく齋藤会長を先頭に山の家の碑の前にお花をそなえ御冥福をお祈りさせて頂くことが出来ました。思い出は限りがございますが、私も88才になりました。会長を二十数年無事に過ごせました事は役員の方々、同窓会の皆様

の暖かい御協力があつたからこそ感謝致し、また母校の発展を祈りつつ筆をおかせて頂きます。

念願の同窓会会報が新春に発刊のはこびとなりましてこの日は私達にとりましてこの上ない喜びでございます。昭和十八年、希望にみちた高女に入学しては四十数年の月日が流れました。一年生の時は勉強に運動にお作法にと楽しい女学生時代をおくる

ことが出来ましたが、二年になつて農家へ勤労奉仕、軍需工場へ動員とその僅かな合間をぬつて授業をうけてきました。三年生の夏、空襲で爆弾の直撃をうけ、末広町の校舎はみるも無残な有り様になつてしまいました。すさまじい入る学校でザラ紙に印刷された教科書を読みながら四年を終え卒業を迎えました。高女五年、高校一回と卒業が三期にわたつた上、疎開で転校

して来た方、終戦を期に東京へ戻られた方等目まぐるしい移動があつた時代の私達にとつて、母校への絆はそれほど深いものではなかつたようです。自分をみつめ昔をふり返るゆとりが出来て来たこの頃、皆様のお手許に会報が届けるという事は何とすばらしいことではないでしょうか。

思惟庵を囲む新しい日本庭園も、春夏秋冬と表情を変え、すっかり冬の眺めとなりまして。垣根の向こうに広がるグラウンドには、陸上部員の黙々と練習に励む姿が見え隠れし、ふと、ほのかなつかしさが心をよぎります。同窓会の当番や役をさせて

吉野 烈子 (高9)

思惟庵を囲む新しい日本庭園も、春夏秋冬と表情を変え、すっかり冬の眺めとなりまして。垣根の向こうに広がるグラウンドには、陸上部員の黙々と練習に励む姿が見え隠れし、ふと、ほのかなつかしさが心をよぎります。

同窓会の当番や役をさせていただきましてこの数年、ときどき学校を訪れ、他では味わうことのできない「何か」を、折にふれ感じております。そして、この度「権の樹」創刊の運びとなりましてこの心からうれしく思っています。

この会報を通じて、いろいろな所で活躍していられた皆さんの同窓生が、母校とのつながりをもち、ふるさとを思い、心の交流ができました。卒業以来三十年を経まして、「母校」という言葉のもつ意味を実感として分かつてきたような昨今、同窓会の皆様に感謝しつつ、「権の樹」が永遠のものとして回を重ねられますことを願っております。

堺 徳子 (34回)

国際婦人の十年も終り、婦人の地位が社会から認められるようになりまして、同窓会会報「権の樹」の発刊は、記念すべき事に思ひます。今年九月末、私達旧三十四回

卒は四万温泉でクラス会をしました。六十八才の老女なのに、先生に叱られた事、カンニングした事等々五十年前の学生にもどつて、また昭和九年上毛の野に行幸を仰いだ時の懐かしい歌を大声で合唱しました。何度も唄い楽しいひとときでした。十月になつて同窓会の旅行があり、信州の鎌倉路別所温泉でしたが、今年の当番高十回卒前後の若い人達が、母や祖母のような先輩の面倒を良くみて下され、坂道では手を、参道では荷物を持つて下され仲良く歩きました。「トイレは?」「はいこちら」等々バス一台の人員でしたが、実に楽しい旅行でした。夜は私達年輩者も、若い人達の中に入り蓄音機から勤労奉仕の話まで語り楽しいふれあいでした。私はその時、「同窓会は生きてる」と思いました。

かねてからの念願であつた同窓会報が、たくさんの方々のご協力のもとに、ここに発刊の運びとなりました。このまことに喜ばしいことでございます。

荒木校長先生をはじめ原稿をお寄せくださいました方々編集・発行のお手伝いをしてくださいました方々本当にありがとうございました。

題字「権の樹」は齋藤氏先生の筆によるものです。また写真を提供くださいました湯浅写真館に感謝申し上げます。会員の皆様には、はじめの会報を手になされて、ご感想はいかがでございますでしょうか。いろいろのご意見をぜひお聞かせいただければ幸いです。

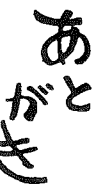
先輩の方々、わけても新野さんや神保さんは、いつもかくしゃくとしていらして感心させられることが多いのですが、先日もちよつと新野さんのお宅へお伺いした時に、指貫をして出ていらした際には本当にびっくりいたしました。



金井光代 (校内理事)

同窓会独自で会報「権の樹」が発刊されますことは、高女同窓会の活気的な歩みだと考えております。初めて刊行した同窓会報の「発刊の辞」にあるように、卒業生相互の消息と母校の状況等が会報によつて知ることが出来る喜びと発展を祈ることが記載されておりました。

現在同窓会事業の一つとして年一回五月の総会開催通知に僅少ながら通信として同窓生の活動も含め、旧教職員と二三、三九八名の卒業生に知らせているのみです。



企画として具体的な内容として記事の決定が、最終的に原稿が整つたのは十二月中旬でした。したがって年末を控えて多忙のところ、原稿を寄せて下さつた同窓生の皆様にはご無理いただきご協力を感謝いたしております。なお資料等「写真も含めて」余裕をもって早目に準備し、次号はよりよい二十一世紀に向け飛躍のある会報が発行できます事を期待いたします。

幸せの子感がかたちになる。ご予約・お問い合わせは、ブライダルコーナー直通 (0273) 22-8325 高崎ビューホテル 群馬県高崎市柳川町70 〒370 ☎ (0273) 22-1111

次号からの企画について、皆さまのアイデアをお寄せいただきたいと思います。どうぞ、ご意見やご希望などをご遠慮なくお聞かせください。武井成野(高4回) (編集委員長)